マカオ、新型コロナ市中感染の拡大続く、累計 65 人に…全市民迅速抗原検査によるスクリーニング実施中

2022/6/22 マカオ新聞

マカオでは、約 8 ヶ月にわたって新型コロナの市中感染確認例ゼロを維持していたが、6 月 18 日深夜以降、新たな陽性者の出現が続いている。

マカオ政府新型コロナウイルス感染症対策センターは 6 月 22 日正午すぎ、同日午前 9 時時点の最新情報を公表。

PCR 検査を経て陽性が確定した人の数は累計 65 人となり、21 日午後 5 時の会見時点から 16 人増。内訳は女性が 45 人、男性が 20 人で、年齢は 8 ヶ月～89 歳。このうち症状ありが 24 人、無症状が 41 人。

また、疫学調査を通じて、隔離の対象とされた人の数は 2965 人に上っている。内訳は陽性者の濃厚接触者が 437 人、非核心濃厚接触者（陽性者と同じ場所に居合わせた）が 1655 人、二次濃厚接触者が 261 人、一般接触者が 61 人、付き添い人が 486 人。多くの幼稚園児や小学生が隔離対象となっているため、付き添い人の数が多くなっている模様。

マカオでは 6 月 19 日正午から全市民 PCR 検査（義務的）によるスクリーニングが実施され、当初予定通り 21 日正午に終了。これを通じて多くの陽性者の発見に至った。続いて、22 日には全市民を対象とした迅速抗原検査によるスクリーニングが実施されている。検査キットは全市民 PCR 検査会場で配布済みで、セルフ方式で検査を実施し、オンラインで結果報を行うが、陽性となった場合には特定の医療機関で反復検査（PCR 検査）を受けることになっており、必ず救急車を呼ぶよう呼びかけが行われている。なお、マカオ半島の一部に重点区域（写真参照）が設定され、区域内に居住、勤務する人などについては、迅速抗原検査と併せて再度の PCR 検査を受検する必要が生じる。他にも、ミャンマー人の陽性者が多いことから、マカオに滞在するすべてのミャンマー人、全市民 PCR 検査受検時に陽性者と居合わせた人（会場名と日時は公表済み）についても再度の PCR 検査の対象とされた。

これまでのところ感染源については不明とされている。22 日夕方には同センターによる特別会見が予定されており、より詳しい状況説明がなされる見込み。

マカオ、隔離検疫期間を 10 日間に…現行から 4 日間短縮

ゼロコロナ政策を堅持するマカオでは、厳格な水際措置をはじめとする各種防疫対策が維持されている。目下、隔離検疫免除での往来が可能なのは中国本土（中高リスク地域除く）のみで、その他の国・地域からマカオへ入境する場合、所定の施設（指定ホテル）で 14 日間の隔離検疫を受けることが必須となっている。

マカオ政府新型コロナウイルス感染症対策センターは6月11日、オミクロン変異株の潜伏期間が短く、感染者は接触っから7日以内にPCR検査を経て発見できるのが一般的であり、中国本土における最近の経験とマカオのデータ分析を踏まえ、同月15日午前から香港、台湾、外国からマカオへの入境者に対する隔離検疫期間を10日間に短縮すると発表した。なお、隔離検疫期間が10日間に短縮される条件として、新型コロナワクチンの2回以上の接種を完了している、入境時及び隔離検疫期間中のPCR検査結果がすべて陰性となる、防疫要件の遵守に同意することが挙げられる。健康あるいは年齢などの理由でワクチン接種済みの要件が満たせない場合、少なくとも14日以上の隔離検疫を受けることが必要となり、PCR検査結果が陽性となった場合は、政府衛生局が個別状況に応じて対処するとのこと。

マカオ特別行政区の賀一誠（ホー・ヤッシン）行政長官は6月6日、今夏にかけて隔離検疫期間を10日間、さらには7日間まで短縮することを目指すとコメントしており、今後さらに隔離検疫期間の短縮が進む可能性もある。香港ではすでに指定ホテルでの検疫期間が7日間となっている。

マカオの場合、依然として外国人の入境がごく一部の例外を除いて禁止となっており、観光業界やビジネス界からは隔離検疫期間の短縮に加え、外国人に対する入境制限の緩和を求める声も上がっている。